

令和8年度 大阪市立長谷川小・中学校グランドデザイン



教職員がめざす学校組織目標 (Vision) R7.5.26~2年目

生きてはたらく力と、自ら学ぶ力の育成

学校運営の具体的な行動手段 (Value)

教育課程柔軟化 **サキドリ** 研究校事業(探究学習×会議改善)



児童心理治療施設 (本校正門前に併設)

大阪市立長谷川羽曳野学園

職員理念: 社会的養護の砦として、子どもに寄り添い自立を促し見守り続けます

社会福祉法人みおつくし福祉会
平成31年4月学園の運営開始
本校教育の基盤で常に連携協働



めざす学校像・めざす子ども像(Image) R7.5.26~2年目

めざす学校像 学園外唯一の社会的な学びの場として、将来に生きて働く力を育む学校
めざす子ども像 将来への希望を持ち、他者と協働しながら、自ら学ぶ力を高める子ども

重点目標 (Mission) コンセプト=支援と規律×学びの工夫×チーム学校

① **SWPBS とアプローチ** (個々のリマインダー等を把握した距離感ある支援)

安全
安心

小学校 SWPBS を中学校に継承し、組織的同じアプローチで規律を創りだす。

- SWPBS を小中生活指導の基盤とし「傾聴・承認・称賛」する営みを大切にする。
- 計画と予告⇒支援と称賛⇒振り返りと改善で「面のアプローチ」を確立する。
- どの児童生徒に対しても等しい指導をめざし、教科担任 T1 と学習サポーター T2 のチーム学校組織による段差のない支援により、安心と規律をうみだす。

② **探究学習と授業の工夫** (コミュニケーションスキルの向上と学び方の工夫)

学力
体力

小中一体の探究学習により、GIGA 端末を活用した情報活用能力を向上させる。

- 授業内容を介した対話型の授業をベースに、内容や学び方の工夫に取り組む。
- 教育課程の柔軟化による小中の余白を活用し、前半は縦割りのグループによる他者との探究学習に取り組み、後半は個々の探究学習を「深い学び」につなげる。
- 自ら学ぶ時間を設定し、自己調整して思考や行動を修正できる力を育む。

③ **学園・大学等とのパートナーシップ** (チーム学校による教職員の業務分担)

教育
環境

児童生徒と教職員がともに安心できる教育環境づくりのための連携を深める。

- 月1回の学園との連絡会等でのアセスメント情報や専門性が得られる場の整備や個別の支援が必要な児童生徒の学習環境の整備等、業務改善を進める。
- 大教大(柏原 C 教育心理)の実習生受入れを通じてアプローチの幅を広げる。
- PBS や探究学習の成果を広め、研究者等からの知見を次の改善につなげる。



令和8年度 校長の目標達成水準一部抜粋 (小学校 学力経年調査・中学校 年度目標アンケートにおける)

- 「学校に行くのは楽しいと思いませんか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 67.0%以上にする。(R7 年度 66.7%)・肯定的に回答する生徒の割合を 77.0%以上にする。(R7 年度 76.9%)
- 「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 91.0%以上にする。(R7 年度 90.9%)・肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7 年度 53.8%)